

2010

平成22年

2.1

発行責任者

発行責任者 柳澤 讓

昭和48年初版

第69号

46自治会

★世帯

題字揮毫 篠田昭新潟市長

# 六道



「地域主権」と「東アジアの時代」  
を新潟から切り拓こう

新潟市長 篠田 昭

皆さま、新年明けましておめでとうございます。昨年は全国が大変厳しい経済環境でしたが、新潟にはNHK大河ドラマ「天地人」放映やJ.Rの「デステイネーション」キャンペーン「開催など、追い風も吹く中で「大観光交流年」に取り組みました。市独自の大型企画「水と土の芸術祭」を先月末まで開催しました。市内全域に設置された野外アートを訪

ね歩きながら、新潟には素晴らしい「水と土の暮らし文化」があることを実感いただけたいと思います。参加者も当初、53万人の方から楽しんでいただけました。これをキックオフイベントとして「水と土の文化創造都市」へと歩を進めて参ります。一方で、日本の国政は昨年大きな転機を迎えました。本格的な政権交代によって誕生した鳩山政権は、「地域主権

時代の実現」を政権が最も大切にする「1丁目1番地」政策に据え、「地域主権時代の担い手は基礎自治体（市町村）」との方向を明確にしました。鳩山政権による初の予算案も大枠が固まりましたので、それに対応する市予算を編成してまいります。また、地域主権時代を切り拓くため、今後鳩山政権に対しさまざまな政策提言・提起を行ってまいります。これと並んで注目すべきことに「東アジア共同体の構築」があります。成長著しい中国などとして向かい合う日本をつくっていくことは喫緊の課題です。前原国交相は従来の港湾整備の見直しを表明、

日本海側港湾の重要性に着目しています。この機会に、本州日本海側で群を抜く拠点性を持つ新潟港を、北東アジアと首都圏・中部圏を結びつける中枢拠点港として国に位置づけさせ、「日本海中核港湾」の選定を勝ち取ることが新潟の発展には欠かせません。先の見えにくい時代ではありますが、「日本海政令市」としての拠点性発揮「つと安心に暮らせる新潟」の両面を目指して、市民力・地域力を結集してまいります。今年もよろしくお願いたします。



## 年頭にあたり

坂井輪中学校区コミュニティ協議会 会長 柳澤 讓

明けましておめでとうございます。昨年中は、当コミュニティ協議会の事業実施につきまして、地域の皆さまからご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。本年も旧に倍するご厚情を賜るようお願い申し上げます。

略称。は、第91回全国高等学校野球選手権大会に出場し、本県代表チームがかつて経験したことのない決勝戦に駒を進めました。結果は、ご存じのように、愛知県代表中京大京高校に惜敗しましたが、文理高校は最終回に猛打を爆発させて1点差まで詰め寄り、甲子園球場の観衆や、県内はもとより全国の野球ファンに大きな感動を与え、また、地元の子ど

も達にも、努力すれば夢は必ず実現するものであることを立証してくれました。文理高校野球部員の皆さんのいっそうの精進と、野球部のさらなるご発展を祈りたいと思います。 「安心生活創造事業」モデル地区に選ばれる 昨年、当坂井輪中学校区コミュニティ協議会の地域が、国の「安心生活創造事業」モデル地区に指定されました。この事業の目的は、一人暮らし高齢者のみならず、障がい者や日中高齢者のみの世帯などに対し、生活基盤の支援を行うことにより、地域で安心して暮らせる持

継続可能な共助の仕組みづくりに取り組みたいというもので、事業を実施する方々や、まず、対象となる生活上の課題を把握しなければなりません。このため、昨年秋季以来民生委員さんのご協力で調査を行い、今年度は、調査結果に基づき具体的な事業の進め方を決め、地域の方から「訪問協力員」を募集して実施に移すこととしております。詳細については、追ってお知らせしますので、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。 (注)「安心生活創造事業」については、四面をご参照ください。

# 自治会だより

坂井輪連合自治会を構成する46の自治会では、会長・役員が中心となって、それぞれに自治会内の安心、安全で快適な生活の維持・向上や、会員同士の親睦増進に心を砕いておられます。

## 緑ヶ丘自治会創立50周年を迎えて

緑ヶ丘自治会会長 梶原 宜教

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

## 自治会の現状と課題

寺尾山の手自治会

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

## 花に出逢う街

### 自治会活動あれこれ

上坂井自治会会長 近藤 豊治

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。



「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

「青松白砂あやなすあたり、  
輪中学校校歌の一節ですが、  
昭和34年、助け合いの精神で  
地域の41世帯が団結し、この  
校歌の「緑ヶ丘」を名に頂き  
自治会を結成して50年が経過  
いたしました。

ですが飛び初め、多くの方が楽しく観察されておられました。このような状況の中で相変

わらずゴミの不法投棄（最近

は自転車なども）、ゴミ捨て防止看板の破壊など苦慮しております。

## ふれあい秋まつりを開催

坂井輪第二団地自治会

平成二十一年度会長 本間 芳弘

「子供達に故郷での良き思い出を作ってあげたい」未来を担う子供達を想う地域の方々の一声から始まったイベントでした。同じ想いを抱く地域ボランティアの方々も企



画段階より参加して頂き、入念に打合せを行ない開催致しました。11月の開催にあたり、心配されていた天候も、当日を迎えてみれば汗ばむ程の秋晴れ。好天に恵まれたイベントの内容は、豚汁、飲み物の振舞い、子供遊び場、地域友好の憩い場を設け、さらに災害予防のパネル展示とアルファ米焚出し訓練など、催し物を多数行ないました。多くの方々からご参加頂き、幅広い世代が楽しく語り、新しい地域友好が生まれたイベントとなりました。参加者から「何十年振りに同級生に会えました」との嬉しいお声も頂きました。子供も大人も楽しく、そして笑顔溢れる地域社会作り的一端を担う事が出来たと思っております。ご協力頂きました地域の皆様へ感謝申し上げます。

## 「若さもりもり元気塾」を実施

去る1月22日、西区役所健康福祉課主催「介護予防リーダー研修会」において昨年度の「元気塾」実践例が報告されました。

以下当日の資料から当連合内、寺尾新町第一自治会・寺尾南新町自治会における事例を引用、報告させていただきます。

### 寺尾新町第一自治会

昨年十月十九日、自治会館で「高齢者の転倒予防について」をテーマに開催され、二十一名の自治会員が参加、講話と実技で学びました。

講話は、新潟大学教授を講師に、運動に関するQ&Aをクイズ形式で勉強、科学的根拠に基づいたわかりやすい解説に、参加者一同「なるほど!」とうなずいていました。

次いで、運動普及推進員・民生児童委員・地域包括支援センターや西区社会福祉協議会職員の皆さんなどといっしょに軽い体操をしました。少し汗ばみましたが、「気持ちいい」「すっきりした」「またやりたいね」など、さわやかな笑顔と感想が聞かれました。

(写真上)

### 寺尾南新町自治会

寺尾南新町では、2回にわたって実施、町内のたんぼ広場を会場に、



高齢会員の方々が勉強されました。

○第一回：六月二十六日（二十名参加）  
「認知症予防について」をテーマに、講話とレクリエーションを実施。講師の看護師さんから「健康で過ごすには、水分摂取が大事です」など、食生活のあり方について講義を受けました。

また、地域包括支援センター職員や民生委員さんとともに、軽い体操や、お手玉を使ったレクリエーションで、部屋中に笑い声が響きわたっていました。

○第二回：十一月十六日（十八名参加）

「老化を遅らせるバランス食生活について」をテーマに栄養指導を受けました。

栄養士さんと低栄養を予防する食事について勉強し、配付された簡単レシピで、「早速料理してみようと思います」などの感想が述べられました。



(写真下)

# 安心生活業 創造とは

悲惨な孤独死、虐待など  
を一例も発生させない地  
域づくりを目指して

## ★事業の成り立ち

平成21年度から3年間、国（厚労省）が選定した「地域福祉推進市町村」が行うモデル事業で、新潟市をはじめ全国55市町村が指定を受けました。この事業に係る費用は、3年間は国庫補助によって賄われます。（その後は自主財源が必要とされます。）

新潟市では、この事業の対象を、坂井輪中学校区コミュニティ協議会地域内の居住者とし、さらに、実際の事業実施を当地区内所在の社会福祉法人坂井輪会に担当してもらうこととしました。

したがって、この事業は  
 ・事業主体 新潟市（西区）  
 ・提供主体 社会福祉法人 坂井輪会  
 ・対象者 坂中校区コミュニティ協議会  
 地域内居住者  
 ということとなります。

## ★事業の目的と内容

目的は、1面の記載どおりで、生活基盤支援の内容としては、「見守り、買い物支援」を基本とし、これに対象者のニーズによるものが加わるものとなります。

## ★支援提供体制

坂井輪会では、地域安心サポートセンターを設けて専任の担当チームをおき、地域の方々の中からの訪問員が加わった提供体制を組むことにしています。

## ★支援対象者

高齢者、障がい者だけでなく、地域から孤立する可能性があり、定期的な基盤支援が必要と見られるすべての人や世帯とします。



安心・安全なまちづくりのために  
三者合同研修会

コミ協議会長の「年頭にあたり（第1面に掲載）で触れられている「安心生活創造事業」について補足しました。

連合自治部主管の平成二十一年度自治会長・民生児童委員・友愛訪問員の三者合同の研修会が、十一月二十九日、西区役所大会議室を会場に開催されました。

約60名の参加者は、○事業説明「安心生活創造事業」・「さかい輪ふれあい収集事業」  
 担当：坂井輪会 上杉あさ子さん  
 ○講演「新型インフルエンザについて」  
 講師：新潟市保健所長 竹内 裕先生

## 西区役所庁舎整備問題 説明会ひらく

～現状・課題・整備方策など～

西区役所整備問題について、坂井輪中学校区コミュニティ協議会では、1月17日・24日の2回に亘り西区自治協議会から説明を聴き、質疑応答・意見陳述を行いました。

両日併せて約170名の方々が参加、この問題に対して地域の皆さんが深い関心を寄せておられることを伺がわせました。

この問題について、西区自治協議会では、これから区内の各コミュニティ協議会を開き、さらに2月上旬から区内全世帯を対象にアンケート調査を実施、その結果をも踏まえて、更に検討を重ね、4月をめど

にその結論を市長に報告するとしております。なお、説明会での内容は、近く自治会を通じて配付されるアンケート用紙に記載されていますが、概略は左表のようになります。



方策	整備計画内容(各方案にメリットとデメリットの説明が付されました。)
1	分館の耐震補強改修のみ。
2	新しい分館を建築し、区役所を分館に集中させる。
3	本館を増築し区役所を本館に集中させる。
4	公民館、図書館を移転、区役所を分館に集中する。
5	公民館、図書館、健康センターを移転、区役所を分館に集中する。
6	区役所のみ移転、分館の耐震補強改修のみ。
7	区役所、公民館、図書館の移転。
8	すべての機能を移転する。

## 西区一斉クリーンデー 8月1日実施：自治協議会呼びかけて

先ごろ、西区自治協議会から、区内コミュニティ協議会に「西区一斉クリーンデー」への参加呼びかけがありました。

この行事は、昨年初めて実施され、坂井輪中学校区内でも6自治会約300名の方々の参加があったもので、今年も第2回目となります。

この行事の目的、実施内容などは次のとおりです。

## ☆目的・趣旨

西区一斉に清掃活動を行うことにより、区の一体感を醸成するとともに、環境美化意識の向上を図る。

## ☆実施内容

実施方法や実施範囲などは、各コミュニティ協議会内で検討する。

坂井輪中学校区コミュニティ協議会では、先般役員会で検討した結果、8月1日実施で参加することとし、連合自治部が担当して、時間・収集するごみの種類・収集範囲・集積場所などを検討のうえ各自治会に参加を要請することになりました。なお、参加は強制でなく、各自治会の都合によることとしています。

## ◆あとかぎ

新潟市で26年ぶりの大雪、馴れない雪かきや車の運転など、対応にご苦労されたこととお見舞い申し上げます。

## ◆

当地区コミュニティ協議会の西区役所整備問題説明会で、参加された方々からいろいろのご意見が出ました。西区全体のとりまとめに当たって自治協議会委員のご苦心が思いやられること

## ◆

今回もご多忙の中、市長さんをはじめ多くの皆様から原稿を頂きながら、担当の不幸で発行が月遅れになってしまったことをご詫言申し上げます。